

令和6年度
「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立下新庄小学校

令和7年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現】

生活指導部会での情報共有や月別目標や学校安心ルールに基づいた規範意識の向上の向上への取り組みと共に、生活指導部を中心とした安心・安全な学校づくりへの取り組みを進めることができた。学期ごとのいじめアンケートから認知したいじめについては、丁寧に取り組みを行いその都度解決していくことで、年度目標は達成できている。しかし、新たないじめの訴えが出てきたりするのも事実である。普段から学級の様子を見守り、見逃さないように心がけるとともに問題行動に対しても生活指導部会やスクリーニング会議で共通理解を図り一貫した対応ができるよう引き続き取り組みを進めていく必要がある。また、今後はいじめの早期発見や早期解決に向けて、スクールライフノートを活用し、学校全体でその活用法や対応の統一を考えていく必要がある。

校内調査の「自分にはよいところがありますか」という項目について、学校全体としては、否定的回答は 20%以下で目標は達成しているが、学年によりばらつきがある。否定的な回答が 20%をこえる学年もあることも念頭におきながら自尊感情の向上に向けて、学級・学年集団の実態をよく分析し、学級・学年にあった取り組みを進めていく。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学力向上への取り組みについては、チャレンジタイムや年間を通じた計画的な反復練習を通じて、基礎・基本の学力の定着を図る取り組みを進めることができた。チャレンジタイムでのプリント学習や学習教材データの活用、一人一台パソコンのデジタルドリルの活用など基礎・基本の定着に特化し、学力の底上げを行ってきた。それでもなお定着が厳しい児童には休み時間や放課後に個別指導を行った。その結果、小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させることができ目標を達成することができた。学力向上には、学習意欲の向上も大切な要因となる。習熟度別学習や少人数学習を行うことで、学習に苦手意識を持つ児童も安心して学ぶことができた。研究教科を国語科とし、読み取る力・応用する力について一定の成果を得ることができた。今後は、系統立てた取り組みを進めていくことと引き続き対話的学びを取り入れていく必要がある。コロナ禍の影響により体力の低下が見られた。体力の向上については、休み時間や体育の授業の中で積極的に体を動かすことのできる時間の確保や学年スポーツ大会を企画するなど、運動に興味・関心が高まる工夫を取り入れ進めてきた。校内アンケートにおける「運動することが好き」と肯定的回答の割合は、目標の 90%を達成することはできなかったが、向上は見られた。今後もなわとび週間やかけ足週間など持久力を向上する取り組みを行う必要がある。引き続き、運動の楽しさにふれあうことのできる機会をもてる取り組みを進めていくことで内面の向上を目指し、今一度、基礎・基本に重点をおいた指導を重ねることで運動能力の向上へとつなげていきたいと考える。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度の全国・学力学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

R4 : ③91.4% ④84.9% ⑤83.3% ⑥85.2% Ave 86.2%
R5 : ③81.0% ④94.3% ⑤77.6% ⑥66.7% Ave 79.9%
R6 : ③84.2% ④87.7% ⑤91.9% ⑥81.8% Ave 86.4%

○毎年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を毎年、前年度より減少させる。

R3: 0.62% R4: 2.73%
R5 (中間) : 3.20% R5 (年度末) : 3.62%
R6 (中間) : *.**% R6 (年度末) : *.**%

○毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を毎年増加させる。

R3: 0.0% R4: 0.0%
R5 (中間) : 0.0% R5 (年度末) : 0.0%
R6 (中間) : *.**% R6 (年度末) : *.**%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を55%以上にする。

経年調査 : R4 : ③51.4% ④47.2% ⑤31.3% ⑥42.6% Ave 43.1%
経年調査 : R5 : ③50.0% ④40.0% ⑤37.3% ⑥33.3% Ave 40.2%
経年調査 : R6 : ③34.2% ④57.9% ⑤45.9% ⑥40.9% Ave 44.7%

校内調査 : R4 (中間) : 44.4% R4 (年度末) : 45.3%
校内調査 : R5 (中間) : 42.1% R5 (年度末) : 40.9%
校内調査 : R6 (中間) : 51.1% R6 (年度末) : 50.2%

○令和7年度の全国・学力学習状況調査の平均正答率5割以下の児童を令和3年度より4ポイント減少させる。

R4 : 国語 46.2% 算数 46.2%
R5 : 国語 46.2% 算数 48.9%
R6 : 国語 45.6% 算数 45.6%

○小学校の学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な好きと回答する児童の割合を85%以上にする。

R4 : ③85.7% ④71.7% ⑤60.4% ⑥50.0% Ave 67.0%
R5 : ③86.2% ④94.3% ⑤92.2% ⑥75.6% Ave 87.1%
R6 : ③55.3% ④75.4% ⑤89.2% ⑥70.5% Ave 72.6%

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習をしている」の項目について「週1回以上」と答える児童の割合を80%にする。

R4 (中間) : 69.6% R4 (年度末) : 72.7%

R5 (中間) : 84.3% R5 (年度末) : 86.2%

R6 「心の天気やナビマなどで、学習者用端末（一人一台端末）を活用して学習をしていますか」

R6 (中間) : 94.0% R5 (年度末) : 93.0%

○学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては、1日以上設定する。

R4: 夏季休業中3日、それ以外の休業期間2日

R5: 夏季休業中3日、それ以外の休業日期間2日

R6: 夏季休業中3日、それ以外の休業日期間0日

○時間外勤務については、月45時間超え勤務の教職員数を6名以下に減らす。

R4: ④6名⑤8名⑥12名⑦0名⑧0名⑨7名⑩6名⑪4名⑫2名⑬0名⑭1名⑮1名

R5: ④8名⑤7名⑥8名⑦3名⑧0名⑨7名⑩6名⑪5名⑫5名⑬2名⑭5名⑮4名

R6: ④6名⑤4名⑥3名⑦4名⑧0名⑨3名⑩5名⑪3名⑫3名⑬3名⑭3名⑮2名

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小学校）

○小学校経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

R4 : ③91.4% ④84.9% ⑤83.3% ⑥85.2% Ave 86.2%

R5 : ③81.0% ④94.3% ⑤77.6% ⑥66.7% Ave 79.9%

R6 : ③84.2% ④87.7% ⑤91.9% ⑥81.8% Ave 86.4%

○年度末の校内調査において、不登校の児童の在籍比率を前年度より減少させる。

R3: 0.62% R4: 2.73%

R5（中間）: 3.20% R5（年度末）: 3.62%

R6（中間）: 2.06% R6（年度末）: 3.05%

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を毎年増加させる。

R3: 0.0% R4: 0.0%

R5（中間）: 0.0% R5（年度末）: 0.0%

R6（中間）: 1.14% R6（年度末）: 0.57%

学校園の年度目標

○令和4年度の校内調査の「学校のきまりを守っていますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

R4（中間）: 94.8% R4（年度末）: 96.0%

R5（中間）: 89.7% R5（年度末）: 89.0%

R6～「学校のきまりを守ることができていますか」

R6（中間）: 91.4% R6（年度末）: 90.3%

○校内アンケートの「学校は楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

R4（中間）: 91.3% R4（年度末）: 92.4%

R5（中間）: 89.7% R5（年度末）: 89.0%

R6（中間）: 94.0% R5（年度末）: 96.1%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。

経年調査 : R4 : ③51.4% ④47.2% ⑤31.3% ⑥42.6% Ave 43.1%

経年調査 : R5 : ③50.0% ④40.0% ⑤37.3% ⑥33.3% Ave 40.2%

経年調査 : R6 : ③34.2% ④57.9% ⑤45.9% ⑥40.9% Ave 44.7%

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比をいずれの学年も上回る。

R4国語 : ④99.8→100.8 (1.0) ⑤103.9→104.5 (0.6) ⑥100.3→101.6 (1.3)
R4算数 : ④100.2→100.6 (0.4) ⑤104.6→103.6 (▲1.0) ⑥101.6→102.1 (0.5)

(対大阪市 平均正答率)R5国語 : ③101.9 ④104.5 ⑤101.0 ⑥102.9
(対大阪市 平均正答率)R6国語 : ③102.3 ④102.8 ⑤103.1 ⑥102.0

(対大阪市 平均正答率)R5算数 : ③103.8 ④101.6 ⑤101.1 ⑥101.8
(対大阪市 平均正答率)R6算数 : ③100.9 ④103.8 ⑤103.7 ⑥101.0

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

経年調査 : R4 : ③85.7% ④71.7% ⑤60.4% ⑥50.0% Ave 67.0%
経年調査 : R5 : ③86.2% ④94.3% ⑤92.2% ⑥75.6% Ave 87.1%
経年調査 : R6 : ③55.3% ④75.4% ⑤89.2% ⑥70.5% Ave 72.6%

学校園の年度目標

○令和5年度の校内調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。

R4 (中間) : 94.1% R4 (年度末) : 96.0%
R5 (中間) : 93.5% R5 (年度末) : 95.3%
R6 (中間) : 93.2% R6 (年度末) : 93.8%

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕

【R6 新設定】
R6 学習者用端末活用率（月平均） : 5月 : 71.5%、6月 : 80.3%、7月 : 83.1%
80%以上の日数 : 5月 : 33.3%、6月 : 73.7%、7月 : 92.3%
80%以上の日数割合 : 52.4%

○教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を76%以上にする。

〔1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。〕

【R6 新設定】
R7 2月時点 達成率 87.5%

○校内調査の「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

R4 (中間) : 85.0% R4 (年度末) : 88.5%
R5 (中間) : 88.9% R5 (年度末) : 87.0%
R6 (中間) : 88.9% R6 (年度末) : 85.6%

○地域学校協働本部やコミュニティースクールなどの仕組みを生かして、学校の美化や登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との共同による活動をおこないましたか」に対して、肯定的に回答する児童・生徒の割合を85%以上にする。

R4 (中間) : 81.8% R4 (年度末) : 91.7%

≪学校アンケート≫地域の人と取り組む活動(授業)に参加するのは楽しいですか。

R5 (中間) : 88.1% R5 (年度末) : 92.5%

≪学校アンケート≫学校は、地域・保護者のかたと取り組む活動・授業を行っていますか。

R6 (中間) : 88.1% R6 (年度末) : 93.8%

3 本年度の自己評価結果の総括

全体を通して概ね目標を達成できたものの、目標を達成できていない項目がいくつかあった。

なかでも、不登校については、数値上では目標を達成したものの厳しい状況は続いている。それぞれの児童の状況に応じた丁寧な対応を進めており、登校日数が増えている児童もいる。家庭との連携も深めながら不登校の状況が改善できるように進めていきたい。いじめについての意識は、経年調査の結果では全体として目標を達成できている。また、1月の学校アンケートでは89.1%の児童が最も肯定的な回答をしており、大多数の児童は「いじめはどんな理由があってもいけない」という意識を持っている。今後も、「いじめについて考える日」に加え、継続的に児童全員に働きかけていきたい。学力面については、指標の対象となっている国語と算数において、すべての学年で全市の平均を超えている。児童が毎日の学習で身に着けた力をしっかりと発揮した結果である。また、校内研究で進めてきた「主体的、対話的で深い学び」に関する回答も過去3年間で最も高い数値となっており、学校で取り組んできた成果が出ている。今後も研究を通じて授業改善に取り組み、児童の意識を高められるよう取り組んでいきたい。また、今年度も1年間を通して地域の皆様のお力をお借りして充実した取り組みを進めることができた。毎日の見守り活動や地域とのふれあい活動、絵本の読み聞かせ、地域行事など、様々な活動で児童と地域の皆さんとのつながりができている。今後も、連携を深められるよう取り組んでいきたい。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>R4：③91.4% ④84.9% ⑤83.3% ⑥85.2% Ave 86.2% R5：③81.0% ④94.3% ⑤77.6% ⑥66.7% Ave 79.9% R6：③84.2% ④87.7% ⑤91.9% ⑥81.8% Ave 86.4%</p> <p>○小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。</p> <p>R4：③100.0% ④96.2% ⑤95.8% ⑥96.3% Ave 97.0% R5：③86.2% ④100.0% ⑤92.2% ⑥88.9% Ave 89.3% R6：③100.0% ④94.7% ⑤100.0% ⑥95.5% Ave 97.6%</p> <p>○校内アンケートにおける「学校のきまりを守ることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>R4（中間）：94.8% R4（年度末）：96.0% R5（中間）：89.7% R5（年度末）：89.0% R6（中間）：91.4% R6（年度末）：90.3%</p> <p>○校内アンケートにおける「学校は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>R4（中間）：91.3% R4（年度末）：92.4% R5（中間）：89.7% R5（年度末）：89.0% R6（中間）：94.0% R6（年度末）：96.1%</p>	<p>B (3.1)</p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>・スクールライフノートやいじめアンケートを活用して、いじめの早期発見、早期解決に取り組む、いじめはどんな理由があってもいけないことであるという態度を育てる。</p> <hr/> <p>指標 校内アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。</p>	<p>3.2</p>

<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に取り組む活動や地域・ゲストティーチャーと共に取り組む活動、異学年交流や体験的な活動、学校行事など児童が主体的に取り組む活動を年間で12回以上実施し、魅力ある学校づくりを通して学校が楽しいと思う児童を増やす。 	3.6
<p>指標 校内アンケートにおける「学校は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月別目標や学校安心ルールをもとに学校の決まりを守ることを周知し、安全に安心して学校生活を送ることのできる環境づくりに取り組む。 	3.4
<p>指標 校内アンケートにおける「学校のきまりを守ることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異学年や学級でのグループ活動や行事、道徳や人権教育を通して、人と交流しながら互いを認めあい、思いやる心を育てる。 	
<p>指標1 校内アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。</p>	2.5
<p>指標2 校内アンケートにおける「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を85%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 校内アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が全体では89.1%で、目標の85%を上回っている。しかし、学年ごとに見ると目標を下回っている学年もある。</p> <p>② 校内アンケートにおける「学校は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が全体では96.1%で、どの学年においても目標の85%を上回っている。中間評価の94.0%からも、さらに高くなっている。</p> <p>③ 校内アンケートにおける「学校のきまりを守ることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が全体では90.3%で、どの学年においても目標の85%を上回っている。しかし、中間評価の91.4%からは低くなっている。</p> <p>④ 校内アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が全体では97.3%で、ほとんどの学年において目標の95%を上回っている。しかし、校内アンケートにおける「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が全体では84.8%で、中間評価の84.2%よりはわずかに高くなっているものの、目標の85%を下回っている。</p>	

次年度（後期）への改善点

- ① 今後も、スクールライフノートやいじめアンケートを活用し、いじめの早期発見・早期解決に努めていく。また、日頃からいじめにつながる発言や行動に対しての指導を徹底していくと共に、いじめ事案と遭遇した時にどう考えてどう行動するのかを児童と一緒に考えることも必要である。学年に関わりのある教職員間で児童の様子を共有し、いつでも相談し合える環境づくりをしていく。
- ② 不登校の児童も学校行事の取り組みに向けて登校できていることが多いので、今後も異学年交流や体験的な活動、学校行事などの児童が主体的に取り組む活動を計画的におこなっていく。また、普段の生活のなかでも児童が安心して過ごせるようクラス環境を整えたり、普段の授業のなかで児童が楽しさを味わうことができる取り組みを増やしたりする。
- ③ 今年度のように、アンケートなどを活用して児童が定期的に自分の行動を振り返る機会を設け、きまりを守ることにに対する意識づけをおこなっていく。また、本当に必要なきまりを精選した上で、今後も教職員間で指導の内容を共通理解し、一貫した指導をおこなう必要がある。
- ④ 今後も、高学年を中心に委員会活動やたてわり班活動等、学校全体の役に立っていることを自覚できる機会を増やしていく。また、今年度を実施できなかったピアサポートの教員研修をおこなって具体的な取り組みを学ぶ場を設け、実践していく。

(様式例 2)

大阪市立下新庄小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」にと回答する児童の割合を35%以上にする。</p> <p>R4 : ③51.4% ④47.2% ⑤31.3% ⑥42.6% Ave 43.1% R5 : ③50.0% ④40.0% ⑤37.3% ⑥33.3% Ave 40.2% R6 : ③34.2% ④57.9% ⑤45.9% ⑥40.9% Ave 44.7%</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比をいずれの学年も上回る。</p> <p>(対大阪市 平均正答率)R5国語 : ③101.9 ④104.5 ⑤101.0 ⑥102.9 (対大阪市 平均正答率)R5算数 : ③103.8 ④101.6 ⑤101.1 ⑥101.8 (対大阪市 平均正答率)R6国語 : ③102.3 ④102.8 ⑤103.1 ⑥102.0 (対大阪市 平均正答率)R6算数 : ③100.9 ④103.8 ⑤103.7 ⑥101.0</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>R4 : ③85.7% ④71.7% ⑤60.4% ⑥50.0% Ave 67.0% R5 : ③86.2% ④94.3% ⑤92.2% ⑥75.6% Ave 87.1% R6 : ③55.3% ④75.4% ⑤89.2% ⑥70.5% Ave 72.6%</p> <p>○令和6年度の校内調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。</p> <p>R4 (中間) : 94.1% R4 (年度末) : 96.0% R5 (中間) : 93.5% R5 (年度末) : 95.3% R6 (中間) : 93.2% R6 (年度末) : 93.8%</p>	<p>B (3.2)</p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識に関する理解力や活用力を高め、対話的深い学びに向けての授業改善に取り組む。(様々な問題に取り組む機会を作ったり、国語だけでなく他教科でも対話を取り入れたりする。) 	<p>3.3</p>
<p>指標 全員授業の実施とともに学年の授業実践に取り組み、校内調査や学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げ</p>	

<p>たりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」にと回答する児童の割合を35%以上にする。</p> <p>校内調査：R5（中間）：42.1% R5（年度末）：40.9% 校内調査：R6（中間）：51.1% R6（年度末）：50.2%</p> <p>経年調査：R5：③50.0% ④40.0% ⑤37.3% ⑥33.3% Ave 40.2% 経年調査：R6：③34.2% ④57.9% ⑤45.9% ⑥40.9% Ave 44.7%</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイムや年間を通じた計画的な反復練習を通じて、継続的な基礎基本の学力の定着を図り、学力の向上に取り組む」 <hr/> <p>指標 小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点をいずれの学年も上回るようにする。 （单元評価問題や音読、漢字、問題集、学習教材データ、ICT 機器の活用を図る）</p> <p>R5国語：③101.9 ④104.5 ⑤101.0 ⑥102.9 R6国語：③106.7 ④104.3 ⑤106.2 ⑥100.6</p> <p>R5算数：③103.8 ④101.6 ⑤101.1 ⑥101.8 R6算数：③100.3 ④113.3 ⑤114.8 ⑥101.2</p>	3.0
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動することの楽しさにふれあう機会を確保し、運動することに興味・関心を高めることができるような取り組みを実施する。 <hr/> <p>指標 小学校学力経年調査や校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>校内調査：R5（中間）：67.8% R5（年度末）：70.1% 校内調査：R6（中間）：68.8% R6（年度末）：72.8%</p> <p>経年調査：R5：③86.2% ④94.3% ⑤92.2% ⑥75.6% Ave 87.1% 経年調査：R6：③55.3% ④75.4% ⑤89.2% ⑥70.5% Ave 72.6%</p>	3.2
<p>取組内容④【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育の授業や栄養指導の授業を通して、自らの食生活を振り返り、規則正しい生活を身につけることができるような取り組みを実施する。 <hr/> <p>指標 校内調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。</p> <p>R5（中間）：93.5% R5（年度末）：95.3% R6（中間）：93.2% R6（年度末）：93.8%</p>	3.3
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	

- ① 校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は50.2%で目標の35%を上回っているが、学年が上がるにつれて「思う」と回答する割合が減っている。経年調査では35%を下回る学年が1つあったが、全体的には44.7%で目標を上回っている。
- ② チャレンジタイムでは、学年に応じて基礎基本の学力定着のための取り組みをしてきた。一人一台パソコンによってナビマなど各児童の学力に合わせた学習にも隙間時間などに効果的に取り組めた。
経年調査では平均正答率の対全国比を国語、算数ともいずれの学年も上回っている。
- ③ 校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合が全体で72.8%となり、指標の70%を達成した。
経年調査では1学年が70%を下回ったが、全体では72.6%で目標を上回った。
なわとび週間やかけあし週間をきっかけに積極的に運動をしようとする児童も増えており、カードの使用や表彰などにより児童の活動意欲も高まった。中間では未達成だった3.4年生も指標を達成し、6年生は指標には未達成だったが61%から68.4%と数値は上昇した。
- ④ 校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合が93.8%で指標を達成している。

次年度(後期)への改善点

- ① 学年が上がっても自信をもって話し合い活動ができるよう、教材研究や授業改善に取り組み、児童が話し合い活動において自分の考えが深まったと実感できるように支援する。
- ② 学習内容の定着が難しい児童への個別指導を引き続き実施していく。また、経年調査の結果の分析から、弱点を見極め今後の指導に生かしていく。
- ③ 引き続き、体育部を中心に学校全体の体育行事を計画・実施していく。また、学年やクラスでも体育の授業の工夫やクラス遊びを通して、児童の運動への意欲を高める取り組みを行う。
- ④ 次年度も栄養指導や委員会での取り組みを計画的に進め、家庭への啓発も続けていく。給食を生きた教材として活用し、栄養バランスの大切さを伝えていく。

大阪市立下新庄小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕</p> <p>R6 学習者用端末利用率 (月平均) : 5 月 : 71.5%、6 月 : 80.3%、7 月 : 83.1% 80%以上の日数 : 5 月 : 33.3%、6 月 : 73.7%、7 月 : 92.3% 80%以上の日数割合 : 52.4%</p> <p>○教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を 76%以上にする。 〔1 年間の時間外勤務時間が 720 時間以下、時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 6 以下、時間外勤務時間が 100 時間を超える月数 0、直近 2~6 か月の時間外勤務時間の平均が 80 時間を超える月数 0、を全て満たす。〕</p> <p>R7 2 月時点 達成率 87.5%</p> <p>○校内調査の「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>R4 (中間) : 85.0% R4 (年度末) : 88.5% R5 (中間) : 88.9% R5 (年度末) : 87.0% R6 (中間) : 88.9% R6 (年度末) : 85.6%</p> <p>○地域学校協働本部やコミュニティースクールなどの仕組みを生かして、学校の美化や登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との共同による活動をおこないましたか〕に対して、肯定的に回答する児童・生徒の割合を 85%以上にする。</p> <p>R4 (中間) : 81.8% R4 (年度末) : 91.7%</p> <p>《学校アンケート》地域の人と取り組む活動 (授業) に参加するのは楽しいですか。 R5 (中間) : 88.1% R5 (年度末) : 92.5%</p> <p>《学校アンケート》学校は、地域・保護者のかたと取り組む活動・授業を行っていますか。 R6 (中間) : 88.1% R6 (年度末) : 93.8%</p>	3.4 A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6、教育 DX】</p> <p>・一人一台の学習端末の活用に積極的に取り組む。</p> <p>授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕</p>	3.8

指標 校内調査の「心の天気やナビマなどで学習者用端末を活用している」の項目について肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・週1回のゆとりの日の設定や学校閉庁日の計画的な設定を通して教職員の働きやすい環境を整える。	2.8
指標 ゆとりの日については、週1回設定する。 学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては、2日以上設定する。	
取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】 ・読書活動の推進に向けて読書環境の整備を行い、読書習慣の形成に取り組み読書好きな子どもの育成に取り組む。(図書委員会を中心として読書への関心を高める取り組みを進める。図書室開放・図書の紹介等)	3.2
指標 校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向9、家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 社会福祉協議会や地域活動協議会などの地域の関係諸団体や地域ボランティア、地域人材を活用し、児童と地域のつながりができる取り組みを実施する。	3.7
指標 地域学校協働本部やコミュニティスクールなどの仕組みを生かして、学校の美化や登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との共同による活動をおこなう。」校内調査の「学校は、地域・保護者の方と取り組む活動・授業を行っていますか。」の項目について肯定的に回答する児童・生徒の割合を85%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 校内調査の「心の天気やナビマなどで学習者用端末を活用している」の項目について肯定的に回答する児童の割合は、93.8%と、指標を上回っている。</p> <p>② 「ゆとりの日については、週1回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては、2日以上設定する。」については、数字上は達成できているが、業務量を減らさない限り、根本的な解決には至らない。5時を過ぎても会議が終わらないことがある。設定はできているが、働きやすさには繋がっていない。</p> <p>③ 校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合は、85.6%と指標を上回っている。高学年は、わずかに届かなかった。</p> <p>④ 校内調査の「学校は、地域・保護者の方と取り組む活動・授業を行っていますか。」の項目について肯定的に回答する児童・生徒の割合は、93.8%と、指標を上回っている。</p>
次年度への改善点

- ① 毎日の心の天気は、習慣化され継続できているので、デジタルドリルを宿題に活用したり、自主的に個別学習が行えるようなソフトやサイトを活用したりしていく。高学年は、宿題、アンケートや連絡帳を Teams を介して書いている学年もあり、家庭に持ち帰ることもあるので、端末を使うときのルールを作ったほうがいいのではないかな。
- ② ゆとりの日は設定されているが、早く帰れないことも多い。会議時間を短縮したり、行事や業務の精選をすすめたりするなど、本当に「ゆとり」を実感できる職場環境にしていく、と共に一人一人の職員が自分の持ち味を十分に発揮できるような相互理解のある職場環境にしていく。業務のサポートをしてくれる人を増やす。放課後に仕事をする時間の確保が必要。各クラスの取り組みなどを気楽に話し合えるような、情報交換の場を長期休業中などに設けてはどうか。チーム制に向けての取り組みを試みた結果の検証・改善点を出し合うような場があった方がよいのではないかな。
- ③ 図書委員会の取り組みや読み聞かせ、図書館司書の成果が出ているので、今後も継続していく。読書カードにスタンプがたまるとくじ引きができるシステムが児童の読書への意欲を高めている。来年度は、図書館司書が週4日勤務される予定なので、図書館司書を活用したり、各学級でも読書の面白さや、おすすめの本を紹介したりするなど、児童がより関心をもてるような取り組みも考える。高学年向きの本も増やす。毎週の読書タイムを活用して、図書館司書に読み聞かせや読書につながる取り組みが可能であれば、考えていく。校内調査の文面を「本を読むことは楽しいと思う」など、わかりやすい表現に変えてみてはどうか。
- ④ 各学年の取り組みを進めていく。2年生の昔遊び体験は、「高齢化がすすみ教えてあげられる人が少なくなってきた」という意見も地域から出ていた。4年生は、道徳の授業で地域の方々への感謝の気持ちをもつことができた。アンケートを取るときに児童への説明が必要なので、もう少しイメージしやすい表現にしてはどうか。来年度への引継ぎをしっかりと行う。参観日が減るので、地域との交流の時間も学校公開にあててはどうか。